

なりたい自分の姿を生徒がイメージして主体的に取り組む
 特別活動の指導と評価の工夫
 —中学校版「特活カテスト」の開発と活用を通して—

研究の構想

長期研修員 高橋 隆二

なりたい自分の姿をイメージして
 主体的に特別活動に取り組む生徒

特活力が高まる

自他の理解
 をする力

自己理解
 他者理解

他者や集団に
 適応する力

協調性
 適応力
 規範意識

集団の中で
 自分を発揮する力

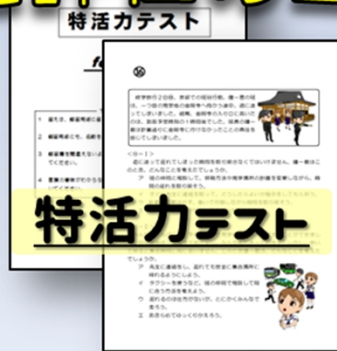
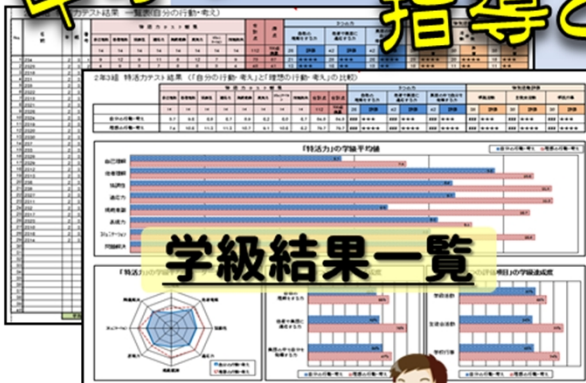
表現力
 コミュニケーション能力
 問題解決能力

評価に
 基づく指導支援

特別活動で身に
 付けさせるべき
 3領域8項目の力

子どもを
 見守り・励ます

中学校版「特活カテスト」の活用による
 指導と評価の工夫



適切に
 見取る

今の自分を
 知る

子どもの
 成長を知る

特別活動の評価
 の工夫や改善が
 必要だ

学校生活の中で
 もっと自分を生
 かしたい

学級や学校での
 活動の様子を知
 りたい

教師

生徒

保護者

中2 実践結果



振り返り 1

特活力は、あなたがこれから生きていく上で必要な力です。自分や周囲の人のことをよく知っていたり、判断が正確で、問題を解決したり、自分自身を伸ばすことで、より豊かな生活を送ることができる。特活テストの結果や自分の振り返り、周りの自分の意見をイメージして、よりよい自分づくりをしていこう。

教師からの助言

自分の強み・得意なこと
 読書が好きで、読書を通して知識を身につけている。
 人の話をよく聞ける。

自分の弱み・苦手なこと
 自信がなくて、人前で話すと緊張してしまう。
 目標を立てることが苦手。

保護者からの助言

自分の強み・得意なこと
 自分で考え、行動する力が強い。
 友達と協力して問題を解決できる。

振り返り 2

自分の強み・得意なこと
 読書が好きで、読書を通して知識を身につけている。
 人の話をよく聞ける。

自分の弱み・苦手なこと
 自信がなくて、人前で話すと緊張してしまう。
 目標を立てることが苦手。

高校先生から(テスト結果分析)

学校生活でどのように生活したらよいか、友達とどうかわかるとよい関係を築くことができるのかをしっかり理解できています。また、友達の良いところを理解したり、相手の気持ちを考えたり行動することで、誰とでもよい関係を築くことが得意なようです。ただ、自信に気を遣い過ぎて、自分の考えをうまく表現できなかったり、自分の考えを押し通すような場面も出てくるようです。自分に

保護者から

同調は気を使っているように感じました。自分の強み・得意なことを伸ばすだけでなく、得意なことを活かして、自信を持って行動できるようにサポートしてあげたいと思います。

振り返り 2

自分の強み・得意なこと
 読書が好きで、読書を通して知識を身につけている。
 人の話をよく聞ける。

自分の弱み・苦手なこと
 自信がなくて、人前で話すと緊張してしまう。
 目標を立てることが苦手。



教師 身に付けるべき力の標準化

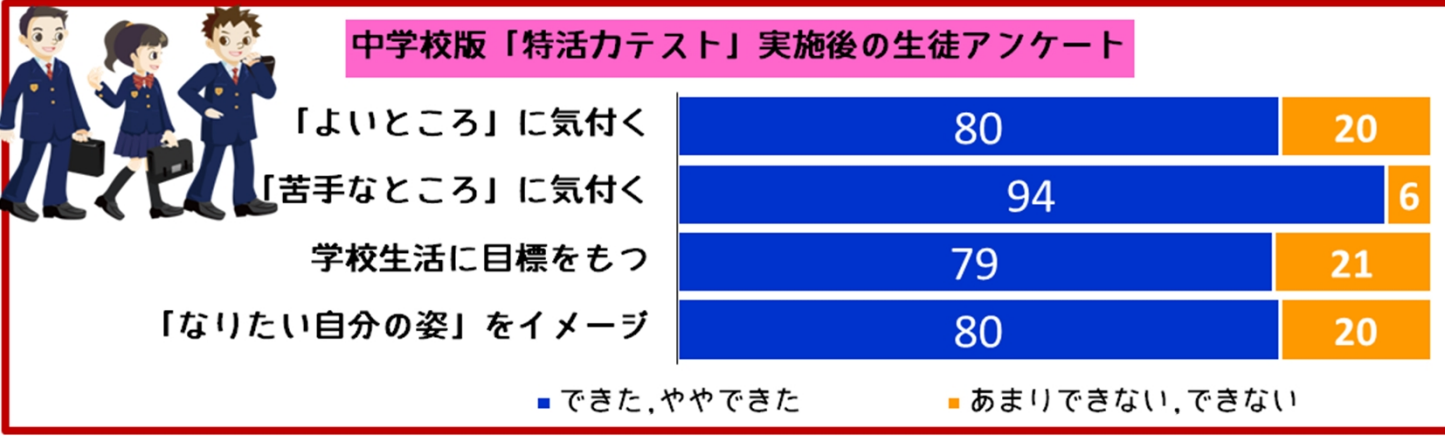
共通認識をもって指導にあたることができるようになり、評価の妥当性・信頼性が高まった。

保護者 評価を家庭へ還元

特別活動に対する意識が高まり、子どもを見守り・励まそうとする姿が見られるようになってきた。

生徒 特活テストの自己分析

なりたい自分の姿をイメージして、学校生活に自信と目標をもって取り組めるようになってきた。



提言

- 生徒の特活力を客観的に把握し目指す姿を教師と生徒が共有することで、生徒を主体とした特別活動の充実を図りましょう。
- 特別活動を通して成長した姿や伸ばしたい力を明確に還元することで、生徒の意欲を高め、家庭による支援を促しましょう。

